

高岡市総合計画第4次基本計画の「まちづくり指標」の進捗状況一覧表

資料 No.1-2

No.	分野	めざすまちの姿(総合計画)	施策	指標 (◎は総合戦略KPIと同じ指標) (㊦は新規・変更のあった指標)	指標区分	単位	基準値	R4年度 (目標値)	R4年度 実績値	R4年度 達成率	R5年度 (目標値)	R6年度 (目標値)	R7年度 (目標値)	R8年度 (目標値)	分析と対応	R5年度取組み内容 (今後の方向性)
1	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している	①新たな事業活動の創出	◎創業件数(累計)	増加指標	件	171 (R2)	120	178	148.3%	240	360	480	600	高岡市創業支援等事業計画に基づき、各種創業セミナーや創業・事業承継支援補助金等を通して、創業機運の醸成を図るとともに、「高岡市創業者支援・事業承継ネットワーク」の各機関との連携による切れ目のない支援を実施し、目標を達成することができた。	起業を志す方へのアプローチや起業の裾野を広げる伴走型支援の展開など、引き続き、各支援機関と連携し、サポート体制の充実を図るとともに、R5年3月に新たに開設した「TASU(高岡まちなかスタートアップ支援施設)」において伴走支援を行っていくことで、更なる創業支援の取り組みを進めていく。
2	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している	②地域産業の競争力強化	◎㊦企業訪問における新商品開発・販路開拓相談件数	増加指標	件/年	84 (R2)	109	56	51.4%	112	115	118	121	コロナ禍や物価高騰の中で、企業の投資先が新商品開発や販路開拓よりも業務効率化(デジタル化等)に向いたと考えられる。そのため、目標達成には至らなかったが、別件の相談の際にも支援制度の周知に努めた。	コロナ禍が落ち着き始めているところを捉え、過去に制度を活用したことがある企業だけでなく、新規企業の掘り起こしを進めるため、積極的な企業訪問を展開し、支援制度の更なる周知に努める。
3	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している		◎伝統産業生産額の維持	維持指標	百万円/年	10,716 (R元)	10,716	9,804	91.5%	10,716	10,716	10,716	10,716	目標の達成には至らなかったが、伝統産業における後継者育成や販路開拓に取り組む事業者の支援等を実施してきた。	各伝統産業の販売額の維持・増加を目標に、各組合や事業者がアフターコロナに向けた商品開発や販路開拓等に取り組めるよう、更なる支援に努めていく。特に販路開拓については、海外への展開が進展するよう支援策を講じていく。
(1)	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している		◎創業件数(累計)(再掲)	増加指標	件/年	171 (R2)	120	178	148.3%	240	360	480	600	高岡市創業支援等事業計画に基づき、各種創業セミナーや創業・事業承継支援補助金等を通して、創業機運の醸成を図るとともに、「高岡市創業者支援・事業承継ネットワーク」の各機関との連携による切れ目のない支援を実施し、目標を達成することができた。	起業を志す方へのアプローチや起業の裾野を広げる伴走型支援の展開など、引き続き、各支援機関と連携し、サポート体制の充実を図るとともに、R5年3月に新たに開設した「TASU(高岡まちなかスタートアップ支援施設)」において伴走支援を行っていくことで、更なる創業支援の取り組みを進めていく。
4	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している	③産業基盤の整備・企業立地の推進	◎㊦市内企業の設備投資件数(累計)	増加指標	件	6 (R元)	10	6	60.0%	20	30	40	50	目標には達しなかったが、首都圏等で開催する企業立地セミナーや基本的な企業訪問等を通し、立地環境の優位性や立地に係る支援制度などのPR活動を積極的に実施した。	R5年度から市内の空き工場等の利活用を促進するため、遊休不動産を活用した設備投資に対する新たな支援制度を創設した。企業立地セミナーや企業訪問にて本市の支援制度や立地環境の優位性をより積極的にPRし、企業誘致や企業の設備投資を支援していく。
5	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している	④中小・小規模企業の経営基盤強化	㊦連携体制による事業承継件数(累計)	増加指標	件	-	1	5	500.0%	2	3	4	5	R3年度に県と連携して実施した事業承継アンケートの結果を踏まえて、市内金融機関を含む産業支援機関等と連携し、「高岡市創業者支援・事業承継ネットワーク」を構築し、事業者ニーズの把握、案件の掘り起こしに努め、目標を達成することができた。	引き続き、事業承継アンケートの結果をもとに、「高岡市創業者支援・事業承継ネットワーク」の各機関と連携し、企業訪問等の実施により、事業者ニーズの把握、案件の掘り起こしを行う。また、創業・事業承継支援補助金、事業承継支援資金等、事業承継に関する支援制度の周知を図り、円滑な事業承継を支援していく。
6	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している		㊦養成スクール修了生の内、伝統工芸産業に従事する人数(累計)	増加指標	人	38(前期12人、後期26人、2力年の人数)	12	17	141.7%	38	50	76	88	伝統工芸産業人材養成スクールの受講生のうち、伝統工芸産業への従事者は17名であった。	2年間のコースの受講生に対しフォローアップをするとともに、新規コースの募集について周知に努める。また、休業・廃業等により産地で失われていく伝統工芸技術やそれに関連する加工技術(溶接等)の保存・継承のため、単発の講習会等の実施について検討する。
7	地域産業	1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している		㊦とやま呉西地区圏域連携 就業マッチング参加登録者数(求職者(新規学卒者のほか、転職希望者、UIJターン希望者含))	維持指標	人/年	280	300	160	53.3%	300	300	300	300	就職活動の早期化や、合同企業説明会の日程が他市と重複していたことが、参加者数の減少に影響し、目標値を下回ったと考えられる。	求職者の参加意欲を高めるため、合同企業説明会の参加企業数を増やし、より多くの企業とのマッチングを目指すほか、就職活動の早期化によるニーズの変化に順応するため、R6年度以降の合同企業説明会の開催方法等を検討していく。
8	地域産業	2 水・緑・食が豊かで暮らしにうおいがある	①農業の持続的発展	㊦新規就農者の増加数(累計)	増加指標	人	-	10	10	100.0%	20	30	40	50	R4年度の新規就農者は10人(うち畜産1名)となった。うち、Uターン就農かつ自営である人数が4人と目立った。	引き続き、JAや県高岡農林振興センター等の関係機関と連携し、新規就農者の確保に努めていく。
9	地域産業	2 水・緑・食が豊かで暮らしにうおいがある		㊦スマート農業技術導入率	増加指標	%	34 (R2)	42	47	111.9%	47	51	55	59	R4年度においては、高性能田植機や水管理システム等の導入に対して、市の補助事業で2件、高岡地域担い手育成総合支援協議会の補助事業で1件の支援を行い、目標を達成した。 (市内の認定農業者・認定新規就農者へのアンケート調査より算出)	R5年度は農業用ドローンの導入等への補助制度の活用を見込んでおり、効率的な農業展開及び技術継承の円滑化に向けて、支援に取り組んでいく。

No.	分野	めざすまちの姿(総合計画)	施策	指標 (◎は総合戦略KPIと同じ指標) (㊦は新規・変更のあった指標)	指標区分	単位	基準値	R4年度 (目標値)	R4年度 実績値	R4年度 達成率	R5年度 (目標値)	R6年度 (目標値)	R7年度 (目標値)	R8年度 (目標値)	分析と対応	R5年度取り組み内容 (今後の方向性)
10	地域産業	2 水・緑・食が豊かで暮らしにうおいがある	②農山村の振興	都市農村交流人口	増加指標	人/年	4,000 (R元)	4,200	3,239	77.1%	4,300	4,400	4,500	4,600	R4年度は、農業センターや棚田地域振興活動において、収穫体験等の都市農村交流イベントが新規に開催された。一方、人手不足からイベントの開催ができなかった施設もあった。	中山間地域等で都市農村交流イベントの新規実施や拡充を促進し、更なる都市農村交流人口の拡大を図っていく。
11	地域産業	2 水・緑・食が豊かで暮らしにうおいがある	③林業の振興	㊦森林整備面積(累計)	増加指標	ha	145 (R元)	155	165	106.5%	160	165	170	175	R4年度は里山再生整備事業により2地区で約7haの森林整備に取り組み、年次目標を達成した。	今後も継続的な目標達成に向け、地元からの相談受付や県との連携等を通じ、新規地区の開拓に努め、森林の持つ多面的機能の増進と森林資源の充実を図る。
12	地域産業	2 水・緑・食が豊かで暮らしにうおいがある	④水産業の振興	㊦農畜水産物の高付加価値化への支援件数(累計)	増加指標	件	5 (R2)	9	9	100.0%	11	13	15	17	R4年度は、農産加工品のパッケージ用機器の購入等の取り組み3件に対して補助を行い、累計支援件数の目標に達した。	今後、販路拡大等の関連施策を含めた支援制度や先行事例をより広く周知し、実施事業者の増加を図る。
13	歴史・文化	3 世代を超えて受け継がれてきた歴史資産が大切に継承され、輝いている	①文化財の保存・活用	文化施設入込者数(瑞龍寺、勝興寺、武田家住宅、伏木北前船資料館、土蔵造りのまち資料館、伏木気象資料館、鋳物資料館、高岡御車山会館)	増加指標	人/年	260,793 (R元)	267,200	182,458	68.3%	273,400	279,600	285,800	292,000	新型コロナウイルス感染症による影響が和らぎ、入込者数は回復傾向にあるものの、年次目標を下回った。R4年12月に国宝へ指定された勝興寺では、R4年の入込者数が約4万4千人となり、R元年に比べて2.5倍に増加した。	勝興寺の国宝指定を記念した企画展やシンポジウム等を行うほか、瑞龍寺と併せた2つの国宝をはじめとして本市の歴史・文化資産の魅力をより一層発信し、入込者数の増加を図っていく。
14	歴史・文化	3 世代を超えて受け継がれてきた歴史資産が大切に継承され、輝いている	②歴史的風致の保全・活用	◎㊦地域の歴史・文化遺産に関するまちづくり出前講座の実施数	増加指標	回/年	11 (H30)	15	15	100.0%	15	15	15	15	新型コロナウイルス感染症による影響が落ち着きを見せ、R3年度を上回る回数の講座を実施し、目標を達成した。	引き続き、講座の開催に努め、歴史・文化遺産を分かりやすく伝えることで、地域の宝としての意識醸成を図っていく。
15	歴史・文化	4 暮らしの中に万葉と前田家ゆかりの文化が息づいている	①地域に根ざした創造的な芸術・文化活動の育成	㊦市場街の現地イベント来場者数及びオンライン配信動画の視聴者数	増加指標	人/年	24,300 (R元)	24,900	30,055	120.7%	25,500	26,000	26,500	27,000	同時期開催のクラフトイベントと連携して「工芸都市高岡の秋。2022」として開催するとともに、高岡中央駐車場を会場とするクラフトマルシェなどの新企画も含め、過去最大のコンテンツ数で実施したこと等により、目標値を達成した。	コロナ禍で生まれたオンラインコンテンツ「市場街TV」を活用しつつ、現地イベントに重点を置いた企画に取り組む。また、同時期に開催する他のイベントとも連携し、更なる集客や高岡の魅力発信を図る。
16	歴史・文化	4 暮らしの中に万葉と前田家ゆかりの文化が息づいている		高岡市万葉歴史館の入館者数	増加指標	人/年	22,736 (H30)	25,300	14,772	58.4%	25,800	26,300	26,800	27,300	コロナ禍の制限がある中で、入館者数は徐々に回復し、R3年度より約2,200人増加したが、目標値には及ばなかった。「万葉歌碑魅力発信プロジェクト」に取り組み、万葉歌碑について、英訳や解説等のコンテンツ、万葉歌碑マップの作成、万葉歌碑サインを設置するなど、国内外に万葉集の魅力を発信した。	万葉故地であり、同地区に建つ国宝勝興寺と連携した事業に取り組み、万葉集と勝興寺の魅力発信について相乗効果を図る。また、「万葉歌碑魅力発信プロジェクト」で整備されたコンテンツを活用し、万葉集や万葉歌碑、万葉ゆかりの地への関心を高め、入館者数の増加につなげる。
17	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの人が訪れるようになっている	①観光資源の発掘と保存・活用	◎高岡市の観光客入込数	増加指標	千人/年	3,850 (H30)	3,922	2,762	70.4%	3,940	3,958	3,960	3,965	新型コロナウイルス感染症の影響が続いており、目標値を下回った。しかし、旅行制限や自粛が緩和されたことによって、観光客入込数はR3年より約93万人増加しており、R5年は更なる回復が見込まれる。	今後も高岡の歴史文化やものづくり産業といった「高岡らしさ」を深く体験できる着地型旅行商品の提案、広域連携による観光プロモーションに取り組んでいく。
18	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの人が訪れるようになっている		㊦市内主要観光地入込客数	増加指標	千人/年	223 (H30)	228	126	55.3%	229	230	230	230	新型コロナウイルス感染症の影響が続いており、目標値を下回った。しかし、旅行制限や自粛が緩和されたことによって、数値は回復傾向にあり、R5年度は更なる観光客入込数の増加が見込まれる。(指標は瑞龍寺、高岡御車山会館の入込客数)	今後も高岡の歴史文化やものづくり産業といった「高岡らしさ」を深く体験できる着地型旅行商品の提案、広域連携による観光プロモーションに取り組んでいく。
19	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの人が訪れるようになっている		旅行プログラムの販売者数	増加指標	人/年	1,271 (H30)	1,500	8,940	596.0%	1,600	1,700	1,800	1,900	旅行商品の中で、特に交通系の1日フリーきっぷや、食をテーマにした「高岡彩食 TAKAOKA SAIJIKI」の売れ行きが好調であり、目標値を大きく上回った。	今後も高岡の歴史文化やものづくり産業といった「高岡らしさ」を深く体験できる着地型旅行商品の提案、広域連携による観光プロモーションに取り組んでいく。
(19)	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの人が訪れるようになっている		旅行プログラムの販売者数(再掲)	増加指標	人/年	1,271 (H30)	1,500	8,490	566.0%	1,600	1,700	1,800	1,900	旅行商品の中で、特に交通系の1日フリーきっぷや、食をテーマにした「高岡彩食 TAKAOKA SAIJIKI」の売れ行きが好調であり、目標値を大きく上回った。	今後も高岡の歴史文化やものづくり産業といった「高岡らしさ」を深く体験できる着地型旅行商品の提案、広域連携による観光プロモーションに取り組んでいく。



No.	分野	めざすまちの姿(総合計画)	施策	指標 (◎は総合戦略KPIと同じ指標) (㊦は新規・変更のあった指標)	指標区分	単位	基準値	R4年度 (目標値)	R4年度 実績値	R4年度 達成率	R5年度 (目標値)	R6年度 (目標値)	R7年度 (目標値)	R8年度 (目標値)	分析と対応	R5年度取組み内容 (今後の方向性)
20	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの人が訪れるようになっている	③イメージアップ・誘致活動の強化	観光ボランティアによるガイド件数	維持指標	件/年	978 (H30)	980	330	33.7%	990	990	1,000	1,000	R2年からの新型コロナウイルス感染症の影響で目標値を下回ったが、R3年の137件に比べ大幅に回復している。R4年12月に勝興寺が国宝に指定されたことや、R6年の北陸デスティネーションキャンペーンの開催などにより、今後は更なる増加が見込まれる。	今後も高岡の観光地としての魅力の発信に努め、誘客及びガイド利用の促進につなげる。
21	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの人が訪れるようになっている		㊦市HPのアクセス件数	増加指標	千件/年	5,350 (H28-R2平均)	5,480	5,537	101.0%	5,520	5,550	5,580	5,610	閲覧者の目を引く場所である、トップページのスライドショーやバナーを、旬の話題や市の重要施策のPRに活用し、市HPのアクセス数の増加を図った。全体ではコロナ関連情報ページへのアクセス数が上位を占めた。	引き続きスライドショーやバナーを効果的に活用し、PRを図る。また、並行してリニューアル作業を進め、R5年度末に新ホームページに切り替える予定である。
22	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの人が訪れるようになっている	④国内・国外交流の推進	㊦大規模コンベンションの市内開催件数	維持指標	件/年	30 (H30)	31	25	80.6%	32	32	33	33	R2年からの新型コロナウイルス感染症の影響で目標値を下回ったが、延期・中止となっていたスポーツ大会が再開されるようになってきており、誘致に一定の手ごたえがあった。	引き続き、スポーツ大会や合宿等の誘致に関係機関と連携して取り組んでいく。
23	交流・観光	5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの人が訪れるようになっている	⑤インバウンドの推進	◎市内外国人宿泊者数	増加指標	人/年	10,511 (H30)	13,250	2,412	18.2%	13,935	14,620	14,700	15,000	R3年度と比較すると増加しているが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、目標値を大幅に下回った。	今後も高岡の歴史文化やものづくり産業といった「高岡らしさ」を深く体験できる着地型旅行商品の提案、広域連携による観光プロモーションに取り組んでいく。
24	交流・観光	6 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている	①商業・サービス業の振興	◎開業件数(累計)	増加指標	件	-	12	20	166.7%	24	36	48	60	目標を超える20件の新規開業件数となった。開業支援事業は中心商店街、観光地周辺の賑わいに効果をもたらしていると考えられる。	R5年度以降も、中心市街地や観光地における新規開業店舗数に直接的に寄与する事業として、引き続き店舗の建設や改装費に対する補助等の支援を行う。
25	交流・観光	6 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている	②中心市街地活性化の推進	◎中心市街地における歩行者・自転車通行量(1日当たり)	増加指標	人/日	10,149 (R2)	11,000	12,217	111.1%	12,000	13,000	14,000	15,000	目標値より1,000人以上増加しており、新型コロナに伴う人流減少から回復しつつあることが分かる。特に休日に、中心市街地へと足を運ぶ機会が増加していることが考えられる。	セリオタウン構想やリノベーションまちづくり事業の進展等による、魅力あるまちづくりを行うこと、また、コンセプトを定めた誘引性の高いイベントを開催し、中心市街地への来街を促すことにより、まちなかに対する経済循環意識を醸成し、賑わいを回復させることに取り組む。
26	交流・観光	6 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている		◎たかおか暮らし支援事業(まちなか区域)に伴う定住人数	維持指標	人/年	60 (H25-27平均)	60	53	88.3%	60	60	60	60	たかおか暮らし支援事業との併用ができない国の支援制度の利用により、まちなか区域での申請数が減少し、目標値を下回る実績となった。	住宅取得への支援に加えて、リフォームに対する支援制度について更なる周知に努め、まちなか区域への居住促進を図る。
27	交流・観光	6 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている	③市街地の整備	◎㊦居住誘導区域内の人口密度	維持指標	人/ha	40 (H27)	40	38	95.3%	40	40	40	40	居住誘導区域内の人口密度は、H27年度からR4年度にかけて下降傾向にある。居住誘導区域内を対象とした居住支援制度をR元年度から始めており、立地適正化計画に関する届出時に同制度を紹介しているが、今のところ居住誘導区域内の人口密度の改善までには至っていない。	R5年度から新婚世帯の住宅取得に関する支援を拡充しており、支援制度の更なる周知に取り組む。また、公共交通サービスの維持・改善を図り、徒歩や公共交通を活用するライフスタイルの提案に努めていく。
(26)	交流・観光	6 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている	④住宅・宅地の整備	◎たかおか暮らし支援事業(まちなか区域)に伴う定住人数(再掲)	維持指標	人/年	60 (H25-27平均)	60	53	88.3%	60	60	60	60	たかおか暮らし支援事業との併用ができない国の支援制度の利用により、まちなか区域での申請数が減少し、目標値を下回る実績となった。	住宅取得への支援に加えて、リフォームに対する支援制度について更なる周知に努め、まちなか区域への居住促進を図る。
28	交流・観光	6 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている		老朽危険空家除却支援件数	維持指標	件/年	5 (H27)	8	11	137.5%	9	9	10	10	空き家に関する相談対応や、空き家所有者等への指導等を実施し、年次目標を上回った。	引き続き、老朽危険空家の把握に努めるとともに、工事費に対する補助等の支援を行い、除却の促進を図る。
29	交流・観光	6 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている	⑤良好な都市景観の創出	違反広告物等の是正件数	増加指標	件/年	10 (R2)	10	10	100.0%	10	10	10	10	事業者の理解を得て、是正件数は目標値に達した。	今後も屋外広告物への理解を得られるよう指導していく。
30	交流・観光	7 交通ネットワークを活かし、県西部の中核的役割を果たしている	①高岡駅・新高岡駅の周辺整備	◎㊦高岡駅・新高岡駅の利用者数	増加指標	人/日	11,970 (R元) 8,666 (R2)	12,200	10,243	84.0%	12,400	12,600	12,800	13,000	コロナ禍による移動制限が緩和される中で、新幹線、あいの風とやま鉄道、JR城端線・氷見線、万葉線の利用者数は回復基調にあるものの、目標達成には至っていない。	R6年3月の北陸新幹線金沢・敦賀間開業や、同年秋の北陸デスティネーションキャンペーンを踏まえて、2次交通を活用した旅行商品の充実や駅施設機能の拡充を図るなど、新高岡駅の利用促進に取り組む。また、引き続き、高岡駅を起点に発着する、あいの風とやま鉄道、JR城端線・氷見線、万葉線の利用促進に取り組む。

No.	分野	めざすまちの姿(総合計画)	施策	指標 (◎は総合戦略KPIと同じ指標) (㊦は新規・変更のあった指標)	指標区分	単位	基準値	R4年度 (目標値)	R4年度 実績値	R4年度 達成率	R5年度 (目標値)	R6年度 (目標値)	R7年度 (目標値)	R8年度 (目標値)	分析と対応	R5年度取り組み内容 (今後の方向性)
31	交流・観光	7 交通ネットワークを活かし、 県西部の中核的役割を果たしている	②高速道路網・幹線 道路網・地域公共交 通体系の整備	㊦公共交通利用率	増加指標	%	8.40 (R2)	16.0	8.50	53.1%	16.0	16.0	16.0	16.0	コロナ禍や少子高齢化の進展によって、 公共交通の利用者数が減少する中で、 R2年度の数値と比較して、利用率はほと んど横ばいとなっている。	引き続き、鉄軌道や路線バスといった骨 格的公共交通の維持に努めながら、これ らと地域とを市民協働型地域交通システ ムでつなぐことで、市域全体の利便性を 高める高岡型地域交通システムの実現 を目指す。市民協働型地域交通システ ムの導入地域の拡大を図るとともに、生活 のシーンに応じて公共交通を取り入れて いくため、乗り方ガイドブックの作成やワ ンデイベスの造成などに取り組む。
32	交流・観光	7 交通ネットワークを活かし、 県西部の中核的役割を果たしている		都市計画道路整備率	増加指標	%	81.6 (R2)	81.9	82.6	100.9%	82.0	82.2	82.3	82.4	着実に事業を進捗させることで、目標値 を達成できた。	引き続き、国・県に対し事業の促進を働 きかけていくとともに、市においても事業 を推進していく。
33	交流・観光	7 交通ネットワークを活かし、 県西部の中核的役割を果たしている	③港湾の整備・活用	クルーズ客船の寄港回数	増加指標	隻／年	4 (H30)	11	0	0.0%	13	14	14	15	H29年度をピークにクルーズ船の寄港数 は減少しており、R2～4年度は新型コ ロナウイルスの影響により寄港が無かつ た。原因として、金沢港と背後観光地が 重複することによる競合や、コロナ禍にお いて船籍港のある太平洋側の港を基点 とした短い日数でのクルーズツアーが増 加したことが考えられる。	R5年度は約4年ぶりにクルーズ船の寄港 があった。国内外において、本格的にク ルーズ船の運航が再開し、寄港数はコ ロナ禍前の水準に回復する見通しである。 引き続き、寄港の際は、安全で利便性の 高いオペレーションを行うとともに、経済 効果や地域の活性化のため、県や関係 機関と連携し、おもてなし事業を行う。
34	交流・観光	7 交通ネットワークを活かし、 県西部の中核的役割を果たしている	④広域連携の推進	㊦第2期とやま呉西圏域都市圏ビ ジョン計画期間中に立ち上げた新規 連携事業数	増加指標	事業	-	0	0	100.0%	0	0	2	2	6市での協議の場で方向性が定まらず、 R5年度に向けた予算要求は見送ること となった。	情報共有の機会を増やし、新規事業に向 けての各市の理解度向上を図る。R5年5 月には、6市の担当課による新規事業案 検討会を実施しており、今後も継続して 検討・協議を行う。
35	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持っ て子育てを楽しんでいる	①教育・保育の一体 的提供の推進とサー ビスの充実	認定こども園の設置数(累計)	増加指標	園	19 (R2)	20	21	105.0%	20	20	21	21	私立の保育所及び幼稚園からの認定こ ども園への移行が進み、目標値を達成し た。	教育・保育の一体的提供と保育サービ スの充実を認るために、今後も認定こども 園への移行を推進していく。
36	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持っ て子育てを楽しんでいる	②新たな子育て情報 提供システムの構築	スマートフォン用子育て情報提供ア プリの登録者数(累計)	増加指標	人	782 (R2)	2,300	2,416	105.0%	2,700	3,100	3,500	3,900	子育て支援センター等のイベント予約機 能の追加や、あんしん出産・子育て応援 事業における活用によってダウンロード 数が増加しており、今後も伸びていくもの と考えられる。一方で、旧アプリからの移 行は想定よりも進まなかった。	引き続き、きめ細かい情報発信とともに、 アプリ上で予約できるイベント等を増や し、より利便性の高いものとしていく。
37	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持っ て子育てを楽しんでいる	③安心して妊娠・出 産・子育てができる体 制の充実	子育てへの不安・負担度	減少指標	%	51.4 (R2)	50.4	56.7	87.5%	49.4	48.4	47.4	46.4	コロナ禍での保護者間の横のつながり等 の希薄化や、物価高騰による経済的な不 安要素が影響し、子育てに対し不安や負 担を感じる保護者の割合が増えたと考え られる。	保護者が育児で孤立しないよう、R5年3 月から保健師とのオンライン面談・相談 が可能な体制を、R5年4月から子育てア プリ「ねねっとたかおか」での育児教室の 予約が可能な体制を整備した。 経済的支援の拡充として、R4年9月より 第2子の保育料と副食費の軽減軽減を実 施した。また、R5年4月には子ども医療費 助成の対象を高校生まで拡大した。 引き続き、子育ての孤立化を防ぐ施策や 経済的な支援を実施し、すべての子ども が健やかに成長できる環境づくりに取り 組む。
38	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持っ て子育てを楽しんでいる		生後3か月までの乳児のいる家庭 訪問率	維持指標	%	99.8 (R2)	99.9	99.2	99.3%	99.9	100	100	100	保護者と連絡が取れず、訪問できなかつ た家庭はあるが、その後の3か月児健診 の際に状況を確認し、支援の必要な方 については対応した。	引き続き、対象者全員への訪問を図り、 取りこぼしがないようにする。
39	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持っ て子育てを楽しんでいる	④地域の子育て力の 応援	子育て支援の実感度	増加指標	%	43.2 (R2)	45.0	37.3	82.9%	46.8	48.6	50.4	52.0	コロナ禍の影響で、子育て支援制度の利 用も制限される部分があり、支援が充実 していると感じる保護者の割合が減少し たと考えられる。	子育て世代が、仕事と子育ての両立がで きるよう、放課後児童クラブやファミリー・ サポート・センター等の充実を図るととも に、保護者が気軽に集い、相談できる環 境づくりに取り組む。
40	子育て・教育	8 安心と希望、ゆとりを持っ て子育てを楽しんでいる		◎㊦放課後児童クラブの入所者数	増加指標	人／年	1,321 (R3.4)	1,450	1,316	90.8%	1,530	1,630	1,630	1,630	R3年度と比較した市全体のクラブ入所者 数は減少したが、R2年度に開設した民間 学童については、市民への周知が図られ るとともに運営が軌道に乗り、入所者数 が増加した。	今後も学童保育のニーズ増加が見込ま れる校区において、空き教室や公共施設 を利用したクラブ整備を検討するととも に、民間学童を誘致し、受皿の確保を 図っていく。



No.	分野	めざすまちの姿(総合計画)	施策	指標 (◎は総合戦略KPIと同じ指標) (ℕは新規・変更のあった指標)	指標区分	単位	基準値	R4年度 (目標値)	R4年度 実績値	R4年度 達成率	R5年度 (目標値)	R6年度 (目標値)	R7年度 (目標値)	R8年度 (目標値)	分析と対応	R5年度取り組み内容 (今後の方向性)
41	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、 生きる力を高め合っている	①確かな学力・豊かな心・健やかな体をはぐくむ教育の推進	教員研修評価アンケートにおける満足度	維持指標	%	90 (R元～2実績を基に算出)	90	98.9	109.9%	90	90	90	90	初任者、ミドルリーダー等のキャリアステージに応じた研修や、ICT教育・不登校児童生徒や外国人児童生徒への対応等、今日的な課題に応じた研修を新たに立ち上げたことで、よりニーズに応じた内容となり、各自が課題意識をもって研修を受講することができた。	R4年度は、新型コロナウイルスの感染状況により、人数制限やオンラインで実施した研修もあったが、R5年度は、全て対面による研修とし、教員同士の交流を通じた学びの場を確保する。また、一部選択研修を設け、各教員が必要感と課題意識をもって、受講できるようにする。
42	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、 生きる力を高め合っている		児童・生徒1人あたりの学校図書貸出冊数	維持指標	冊/月	4	4	4.1	102.5%	4	4	4	4	新型コロナウイルス感染症への対策を行いつつ、教育活動を従来の形へと戻していく中で、生徒の読書活動も活発になってきたと考えられる。	読書活動に加え、調べ学習や新聞を活用した学習など、各教科等の様々な授業で学校図書館が活用されることにより、学校における言語活動や探究活動の場となり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につながるよう努める。
43	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、 生きる力を高め合っている		学校給食に使用する地場産食材の品目	増加指標	品目/年	24 (H29)	26	21.0	80.8%	26	26	26	26	出荷時期と学校給食での使用時期が合致しなかった品目や、生育状況により確保できなかった品目があった。	JAや関係機関との連携を密に行い、学校給食で使用する品目や時期について情報共有し、生産者の新規開拓を検討する。生産量が少ない品目について、引き続き、一部の学校での使用を検討するなど可能な限り地場産食材を使用する。
44	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、 生きる力を高め合っている	②地域に開かれた特色ある教育活動の充実	英検3級以上を取得している中学3年生の割合(英検3級以上相当の英語力を有すると思われる生徒を含む)	増加指標	%	50 (文科省で定める基準)	50	50.3	100.6%	52	53	53	55	グローバル化の進展が急速に進む中、英語力を身につけ、その英語力で仕事を進めたり、様々な情報を活用したりすることに魅力を感じたり、その必要性を感じたりしている生徒が多い。	一人一台学習専用端末を有効に活用して英語力を向上させる学習方法や、向上のきっかけを与える授業方法について、理解や研究を深める機会を検討する。
45	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、 生きる力を高め合っている		郷土に誇りをもつ心を育むことができた児童生徒・教員の割合(児童・生徒)	維持指標	児童・生徒 %	90	90	91.0	101.1%	90	90	90	90	工房等の見学や作品制作だけでなく、作り手から直接学ぶ機会を設けたことが、技のすばらしさや制作の苦労を身近に感じ、高岡の伝統工芸を誇りに思う児童生徒の確保につながったと考えられる。	今後も、伝統工芸の組合や指導講師と連携し、学習を進めていく。また、講師の減少や負担軽減等の課題に対して、協議をしながら、新たな学習形態等について検討する。
46	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、 生きる力を高め合っている		郷土に誇りをもつ心を育むことができた児童生徒・教員の割合(教員)	維持指標	教員℥	90	90	98.0	108.9%	90	90	90	90	銅器・漆器の制作や作り手に直接指導を受ける機会は非常に貴重であり、伝統工芸に対する興味関心や視野を広げるだけでなく、郷土に対する誇りと愛着を育む上でも教育的効果があると思う教員が非常に多かった。	今後も、伝統工芸の組合や指導講師と連携し、学習を進めていく。また、講師の減少や負担軽減等の課題に対して、協議をしながら、新たな学習形態等について検討する。
47	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、 生きる力を高め合っている	③教育効果を高める教育環境の充実	℥学習状況調査において、ICT機器を活用した授業をほぼ毎日行っていると回答した学校の割合	増加指標	%	61.2	70	74.0	105.7%	80	90	95	100	児童生徒同士でOneNote等クラウドを活用した学習を進めたり、教師用デジタル教科書を大型テレビで提示したりするなど、ICT機器を積極的に活用している学級が増えている。活用している割合が目標値を達成した一方で、教員間でICT活用への意識に差が見られ、それが情報活用能力の学級間、学校間の格差拡大につながる恐れがある。	発達段階に応じた学習専用端末の活用方法を系統的にまとめ、活用事例等を提示することで、各学年での指導内容を明確にし、授業での端末の更なる活用を推進していく。また、校務での端末の活用を推進することで、業務の迅速化、教員の情報活用能力の向上とともに、ICT機器活用意識の高揚を図り、学級間、学校間の使用頻度、活用スキルの格差を縮めていく。
48	子育て・教育	9 教育を通じて個性を磨き、 生きる力を高め合っている	④高等学校・高等教育機関の充実・連携	高等教育機関と連携した事業への参加者数	増加指標	人/年	360 (H30-R2平均)	370	386	104.3%	380	390	405	420	高等教育機関との連携事業のうち、富山大学芸術文化学部のみちづくり授業では、授業内で立案されたまちづくり企画について、学生自身が実際に取り組んだ。	引き続き、まちづくり授業において学生の自由な発想を前向きに受け取め、できる限り事業化に向け検討する。高岡法科大学との連携事業では、地元高岡により興味を持つことができる内容になるよう、カリキュラムを大学と調整する。
49	子育て・教育	10 いくつになっても興味のあることを気軽に学べている	①ライフステージに応じた生涯学習の振興	生涯学習センターの利用者数	維持指標	人/年	110,534 (R2)	130,000	161,221	124.0%	150,000	150,000	150,000	150,000	新型コロナウイルスの感染対策を徹底し、諸室や交流スペース等に多くの利用があった。また、ホールについても芸術祭や音楽公演、企業の研修会など多くの団体に利用されたことから、目標値を達成した。	今後も機能の維持に努めながら、幅広いニーズに対応できるよう、サービスの向上に取り組んでいく。
50	子育て・教育	10 いくつになっても興味のあることを気軽に学べている	②未来を担う世代の育成と若者が主体となるまちづくりの推進	℥中学校土曜学習における学習支援員(大学生)の延べ人数	維持指標	人/年	22 (H30-R2平均)	30	36	120.0%	30	30	30	30	大学への依頼や広報を通して、十分な人材を確保することができた。活動においては、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って欠員が出たことにより、1回あたり3人の学習支援員を確保できなかった回もあったものの、全10回で延べ30人を確保するという目標は達成できた。	引き続き大学への依頼や広報を行い、十分な人材の確保を目指す。活動においても、より活発で実りある有意義なものとなることを目指して取り組む。

No.	分野	めざすまちの姿(総合計画)	施策	指標 (◎は総合戦略KPIと同じ指標) (㊦は新規・変更のあった指標)	指標区分	単位	基準値	R4年度 (目標値)	R4年度 実績値	R4年度 達成率	R5年度 (目標値)	R6年度 (目標値)	R7年度 (目標値)	R8年度 (目標値)	分析と対応	R5年度取り組み内容 (今後の方向性)
51	子育て・教育	11 いつでも気軽にスポーツを楽しんでいる	①生涯スポーツ活動の充実	◎体育施設の利用者数	維持指標	人/年	736,000	736,000	587,709	79.9%	736,000	736,000	736,000	736,000	新型コロナウイルスへの感染が拡大していた時期と比較すると、市民のスポーツ活動は感染症対策を行いながら回復してきているが、コロナ禍前の水準には達していない。	新型コロナウイルス感染症により停滞した市民のスポーツ活動を、まずはコロナ禍前の状態に回復できるよう、スポーツ機会の提供等に、より一層取り組んでいく。
52	子育て・教育	11 いつでも気軽にスポーツを楽しんでいる	②スポーツ施設の充実と効率的な活用	◎学校体育施設開放の利用者数	維持指標	人/年	322,000	322,000	228,765	71.0%	322,000	322,000	322,000	322,000	新型コロナウイルスへの感染が拡大していた時期と比較すると、市民のスポーツ活動は感染症対策を行いながら回復してきているが、コロナ禍前の水準には達していない。	新型コロナウイルス感染症により停滞した市民のスポーツ活動を、まずはコロナ禍前の状態に回復できるよう、スポーツ機会の提供等に、より一層取り組んでいく。
53	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立して暮らしている	①地域福祉の推進	◎㊦地域共生社会の実現に向け、地域住民が集い地域のことについて協議する場の開催回数	増加指標	回/年	55 (R2)	60	35	58.3%	70	80	90	90	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域活動や行事を自粛する対応が続いたことから、開催回数は減少していたが、R4年度から徐々に活動の場が再開しつつある。また、R4年度からあつまり福祉推進モデル事業による会議の開催を始めたため、R5年度にはコロナ禍前と同様の会議回数になると見込んでいる。	引き続き、あつまり福祉ネット関連会議（地区巡回等）のほか、支え合う地域づくり会議などを開催し、地域住民の話し合いの場を増やしていく。また、R4年度から開始したあつまり福祉推進モデル事業の取り組みを各地区に広げ、地域住民が自発的に地域課題に取り組む体制を整えていく。
54	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立して暮らしている		㊦地域共生社会の実現に向け、地区診断を実施し、あつまり総合補助事業実施地区数（累計）	増加指標	地区	－	5	2	40.0%	10	15	20	27	R4年度からあつまり福祉推進モデル事業を国吉・二塚の2地区で開始しており、地域住民と様々な分野の支援者が協同し、各地区で異なる課題について地域の実情に合わせた解決策を構築し、総合相談体制を整えるよう取り組んでいく。	あつまり福祉推進モデル事業の取り組みを各地区に広げ、地域住民が自発的に地域課題に取り組む体制を整えていく。
55	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立して暮らしている		ボランティアセンター登録人数	維持指標	人/年	9,892 (R2)	10,000	9,200	92.0%	10,000	10,000	10,000	10,000	登録者数は年々減少している。新型コロナウイルス感染症拡大による活動機会の減少や会員の高齢化による退会者数の増加、退職年齢の引き上げ等によるなり手不足等がその要因として考えられる。	引き続き、ボランティア養成講座等を通して活動内容や魅力を伝えるとともに、ボランティア団体への補助金制度の見直し等、会員が活動しやすい環境が整備されるよう更なる支援を図る。
56	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立して暮らしている	②障がい者（児）福祉・自立支援対策の充実	障がい者相談支援センター相談件数	増加指標	件/年	13,846 (R2)	15,000	14,506	96.7%	15,250	15,500	15,750	16,000	コロナ禍の緩和により、来所相談は増加傾向にある。R4年度の総件数はR3年度よりも減少したが、おおそ例年並みである。	障害を持つ人やその周囲の人が必要な時に必要な支援を受けられるよう、多分野の関係機関による積極的な相互連携を図り、相談・支援体制の強化に努める。
57	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立して暮らしている		㊦福祉施設利用者の一般就労への移行者数	増加指標	人/年	15 (R元)	17	22	129.4%	19	19	20	20	就労支援部会等におけるネットワークを通じて、障がい者雇用の促進に取り組んだ結果、目標値を達成した。新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、一時的に落ち込みが見られた雇用状況は、R3年度から改善されつつある。	コロナ禍が落ち着き、雇用状況が改善されつつある中で、引き続き、ハローワークや特別支援学校などの関係機関と連携を取り、障がい者雇用の促進に向けた施策を実施していく。
58	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立して暮らしている	③高齢者福祉の充実	認知症サポーター養成数（累計）	増加指標	人	19,788 (R2)	23,500	21,549	91.7%	25,000	26,500	28,000	29,500	コロナ禍の緩和に伴って、認知症サポーター養成講座の開催数は増えており、目標値には至らなかったものの、認知症サポーター数も増加している。R3年度から、認知症の方が安心して外出できるような対応や環境づくり等の取り組みを実施している企業・店舗に対する『たかおか認知症パートナー宣言事業所』の登録制度を開始し、この登要件として「認知症サポーターがいること等」を位置付けている。	認知症サポーターの増加には、養成講座について広く知ってもらうことが必要であるため、ホームページや地域での説明会の際に、住民や企業へより一層の啓発を行い、認知症について正しく理解し、地域における支援者となってもらえるよう働きかける。
59	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立して暮らしている		㊦認知症高齢者等SOS緊急ダイヤルシステム協力団体配信箇所数（累計）	増加指標	箇所	359 (R2)	420	399	95.0%	450	480	510	540	たかおか認知症パートナー宣言事業所へ案内文を送付し、協力団体への登録申請を促した。累計の目標値を下回ったものの、R4年度は37件の新規申請があり、年間の増加目標に相当する30件を上回った。	行方不明高齢者の早期発見には、より多くの方に捜索に協力していただく体制が必要となるため、ホームページや高岡市公式LINEなどを活用し、登録数の増加を図る。
60	安全・安心	12 誰もが生き生きと自立して暮らしている		㊦要支援1・2の認定率	維持指標	%	3.5 (R2)	3.5	4.1	82.9%	3.5	3.5	3.5	3.5	要支援1・2の認定率は上がったが、要支援から要介護になった方の割合は下がっていることから、介護予防事業による一定の効果が表れたと考えられる。長期的な視点で変化を見ていく必要があることから、引き続き、介護予防に取り組んでまい。	R5年度から、地域が主役となる介護予防事業として、通所型サービスBや訪問型サービスDが始まっており、支援を通じて、住民が主体的に介護予防に取り組んでいけるような仕組みの拡大を目指す。



No.	分野	めざすまちの姿(総合計画)	施策	指標 (◎は総合戦略KPIと同じ指標) (ℕは新規・変更のあった指標)	指標区分	単位	基準値	R4年度 (目標値)	R4年度 実績値	R4年度 達成率	R5年度 (目標値)	R6年度 (目標値)	R7年度 (目標値)	R8年度 (目標値)	分析と対応	R5年度取り組み内容 (今後の方向性)
61	安全・安心	13 健康的な生活を送り、必要な時に適切な医療を受けられる	①生涯を通じた健康づくりの推進	健康寿命：市民の平均寿命から介護を要する平均期間（要介護2以上）を差し引いた期間。	増加指標	男：歳	79.39 (R元)	79.51	78.49	98.7%	79.63	79.75	79.87	80	R4年度に高岡市健康・栄養調査を実施し、朝食をとらない人の割合や、野菜を必要量食べている人の割合、地域での付き合いの割合など、改善が見られていない項目を把握した。課題を関係団体とも共有しながら、健康づくり活動に役立てた。	がんや糖尿病などの生活習慣病の増加や、青壮年層の生活習慣の問題が引き続き見られる等の課題もあることから、生活習慣を含む個人の行動や健康状態の改善について更なる促進を図る。
62	安全・安心	13 健康的な生活を送り、必要な時に適切な医療を受けられる		健康寿命：市民の平均寿命から介護を要する平均期間（要介護2以上）を差し引いた期間。	増加指標	女：歳	84.89 (R元)	84.91	83.67	98.5%	84.93	84.95	84.97	85	R4年度に高岡市健康・栄養調査を実施し、朝食をとらない人の割合や、野菜を必要量食べている人の割合、地域での付き合いの割合など、改善が見られていない項目を把握した。課題を関係団体とも共有しながら、健康づくり活動に役立てた。	がんや糖尿病などの生活習慣病の増加や、青壮年層の生活習慣の問題が引き続き見られる等の課題もあることから、生活習慣を含む個人の行動や健康状態の改善について更なる促進を図る。
63	安全・安心	13 健康的な生活を送り、必要な時に適切な医療を受けられる		ℕ国保データベース（KDB）システムのデータを活用した、特定健康診査受診者に対するHbA1c（ヘモグロビンエイワンシー）6.5%以上の割合。	維持指標	%	13.9 (R2)	13.9	12.9	107.2%	13.9	13.9	13.9	13.9	受診推奨基準であるHbA1c6.5%以上の割合は、基準値であるR2年度と比較して、やや減少した。	生活習慣病の早期発見のため、特定健康診査の受診率向上を図りつつ、有所見者に対する個別の保健指導に力を入れ、生活習慣病の早期改善、重症化予防に取り組む。
64	安全・安心	13 健康的な生活を送り、必要な時に適切な医療を受けられる	②医療体制・医療制度の充実	市民病院と地域医療機関等との患者の紹介率・逆紹介率（紹介率）	維持指標	%	70.6 (R2)	70	70.4	100.6%	70	70	70	70	市民病院において医療連携懇話会の開催、開業医訪問の実施、病院フェスティバルの開催、広報紙「Heart」の発行等を行い、紹介率は目標値を達成した。	引き続き、目標の達成を目指し、開業医訪問や医療連携懇話会、病院フェスティバルを通じて地域医療機関等との関係性を強化する。
65	安全・安心	13 健康的な生活を送り、必要な時に適切な医療を受けられる		市民病院と地域医療機関等との患者の紹介率・逆紹介率（逆紹介率）	増加指標	%	90.4 (R2)	100	98.6	98.6%	100	100	100	100	市民病院において医療連携懇話会の開催、開業医訪問の実施、病院フェスティバルの開催、広報紙「Heart」の発行等を行い、逆紹介率は目標に近い値となった。	引き続き、目標の達成を目指し、開業医訪問や医療連携懇話会、病院フェスティバルを通じて地域医療機関等との関係性を強化する。
66	安全・安心	14 地域の人々の手で環境が守られている	①環境保全意識の高揚	ℕ住宅用太陽光発電高度利用促進事業の利用件数(累計)	増加指標	件	36 (R2)	60	44	73.3%	80	100	120	140	R4年度の実績は基準値よりも増加したものの、うち新規事業のPPA（第3者所有モデル）による補助件数が1件と伸び悩み、年次目標には達しなかった。	補助事業の利用促進に向けて、環境フェア2023や市民向けアクションプラン（カーボンニュートラルのちらし）等を活用し、市内全域での周知・啓発に取り組むとともに、「脱炭素先行地域」での取り組みと併せて中心市街地エリアにおける普及啓発を加速させたい。
67	安全・安心	14 地域の人々の手で環境が守られている		ℕ環境啓発事業・環境教室の参加者数	維持指標	人/年	264 (R元)	270	162	60.0%	270	270	270	270	実施件数は例年通りであったが、小規模校での実施であったことから、60%の達成率となった。	今後も企業・団体と連携した地域環境教室を実施し、環境教育の環を広げていく。
68	安全・安心	14 地域の人々の手で環境が守られている	②環境保全対策の充実	ℕ地域で実施される美化活動の参加者数	維持指標	人/年	27,700 (H29-R元平均)	35,000	30,000	85.7%	35,000	35,000	35,000	35,000	近年の人口減少や少子高齢化に伴う参加者の高齢化等に加えて、新型コロナウイルス感染症拡大による活動自粛が重なり、活動参加者数の達成率は85.7%に留まった。	美化協定の意義について市民の理解を深めるため、各美化協定団体の活動状況等を市ホームページや広報誌に掲載するなど、効果的な広報活動を通じた周知を進めていく。
69	安全・安心	14 地域の人々の手で環境が守られている	③ごみの減量化・資源化の推進	ごみの再生利用率	増加指標	%	21.1 (R元)	23.5	20.7	88.1%	24.0	24.6	25.4	26.1	再生利用率は、概ね横ばいで推移している。R5年3月に一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の中間見直しを行い、R9年度の目標値を27.0%から28.0%超に変更したところである。目標値の達成に向けて、新たな資源化の手法を検討する必要がある。	R6年度からの木質系廃棄物の資源化、焼却灰の資源化、プラスチック資源の一括回収の実施に向けて、調整を行う。
70	安全・安心	14 地域の人々の手で環境が守られている		ごみの排出量	減少指標	t/年	60,162 (R元)	60,023	57,274	104.6%	59,826	59,306	58,946	58,560	排出量は年々減少する傾向にあり、R2年度の時点で目標を達成している。R5年3月に一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の中間見直しを行い、R9年度の目標値を58,334tから54,852tに変更したところである。	さらなるごみの減量化に向け、ごみ処理にかかるコスト意識の醸成、ごみを出さない生活スタイルの推進、事業者と連携したごみの削減、手付かず食品の再利用の推進を重点施策として、各種取り組みを進める。
71	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	①防災対策の充実	ℕ防災士の登録者数(累計)	増加指標	人	206人 (R2)	274	302	110.2%	308	342	375	408	防災士の登録者数は順調に増加している。	防災士養成研修にかかる受講料等の補助を拡充することにより、資格の取得について一層の促進を図る。
72	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている		ℕ総合防災訓練の実施地区数(累計)	増加指標	校区	6 (R3)	7	7	100.0%	8	9	11	12	計画どおりに進捗している。R4年度は志貴野中学校区で総合防災訓練を実施した。	R5年度は、計画どおり、1校区（芳野中学校区）で実施する予定である。
73	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている		ℕまるごとまちごとハザードマップの整備地区数(累計)	増加指標	校区	1 (R3)	5	5	100.0%	8	11	16	25	計画どおりに進捗している。R4年度は、博労・木津・川原・五位（旧石堤を除く）の4校区で、まるごとまちごとハザードマップを整備した。	R5年度は、計画どおり、3校区（福岡・野村・中田）で整備を行う予定である。

No.	分野	めざすまちの姿(総合計画)	施策	指標 (◎は総合戦略KPIと同じ指標) (ℕは新規・変更のあった指標)	指標区分	単位	基準値	R4年度 (目標値)	R4年度 実績値	R4年度 達成率	R5年度 (目標値)	R6年度 (目標値)	R7年度 (目標値)	R8年度 (目標値)	分析と対応	R5年度取り組み内容 (今後の方向性)
74	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	②消防・救急・救助体制の充実	救命講習会修了者数	維持指標	人/年	2,688 (人口推計を 基に算出)	2,700	2,631	97.4%	2,700	2,700	2,700	2,700	リーフレットの配布範囲を広げたことや、市民ニーズに合わせた救命講習(eーラーニングの活用や、子連れでの参加)を行うことで、R4年度は2,631人の受講があった。目標値Iには達しなかったものの、R3年度の実績1,416人より、1,000人以上増やすことができた。また、心肺蘇生法やAEDの取扱いを普及するイベントを開催したところ、213人の参加があった。	新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、R5年度はより多くの受講者が見込まれるため、指導する職員の確保に向けた取り組みを行う。また、引き続きeーラーニングを含めた時間短縮の講習会や、子連れでも参加可能な講習会を開催する等、市民ニーズに合わせた講習会を実施する。
75	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている		防火防災講習会(デジタルコンテンツによる受講回数含む)参加者数	維持指標	人/年	2,356 (R3.4現在の 人口を基に 算出)	2,400	5,335	222.3%	2,400	2,400	2,400	2,400	R4年度はコロナ禍の影響を受けつつも、集会等の開催について回復の兆しが見受けられ、講習会の依頼も増加した。また、消防職員が outward する機会(立入検査、訓練指導等)を捉え、形式にとらわれずに本講習を併催したことが功を奏した。更に、高岡市公式YouTubeにおけるデジタル講習のコンテンツを拡充したことが、受講回数の増加につながった。	コロナ禍の緩和を受けて、防火講習会の企画・開催に関する講師派遣等についての案内を広く呼びかけ、参加人数の獲得を目指す。 また、引き続き消防職員の outward と併せた講習やデジタル講習の充実を図る。
76	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	③道路整備、交通安全・防犯対策の充実	ℕ交通人身事故件数	維持指標	件/年	322 (R2)	322以下	315	102.2%	322以下	322以下	322以下	322以下	R3年と比較すると、人身事故の発生件数は減少したが、死者数は同数の4名となった。R4年の死者4名のうち、65歳以上の高齢者は3名、自転車利用者は3名であったことから、特に高齢者に向けた自転車乗車中の交通安全啓発を図る。	・交通安全運動等において、引き続き交通安全に係る広報啓発活動に努める。 ・高齢者を対象とした交通安全教室を開催し、交通安全意識の高揚を図る。 ・努力義務化された自転車利用時のヘルメットの着用について引き続き周知を図る。
77	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	④緑化の推進と保全	ℕ花いっぱい連盟の花苗配布数(累計)	増加指標	苗	50,317 (R2)	50,817	54,889	108.0%	51,317	51,817	52,317	52,817	花いっぱい連盟において夏苗・秋苗の配付を行い、目標値を達成した。	引き続き、イベント等において、花いっぱい連盟の会員募集の案内を行い、会員増に努める。
78	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている		ℕ景観の届出行為に関する緑地面積及び開発行為・区画整理事業による緑地面積の合計(累計)	増加指標	㎡	5,000 (H28-R2平均)	5,000	6,623	132.5%	10,000	15,000	20,000	25,000	R4年度に創出された緑地の面積は、年次目標値を上回った。	緑地の設置について、これまでと同様、開発事業者等に指導していく。
79	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	⑤河川・海岸の保全・整備	河川整備率	増加指標	%	87.9 (R2)	88.3	88.2	99.9%	88.4	88.6	88.7	88.9	目標値は概ね達成できた。今後も国庫補助を活用し、河川整備を進める。 ・R4年度施工実績 L=30m	R5年度は守山川、内古川及び大井川等において改修工事を実施する予定である。
80	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	⑥雪対策の充実	民間消雪施設の更新・拡充	維持指標	箇所/年	6	6	3	50.0%	6	6	6	6	相談を受けたが、補助要件に満たず、支援に至らない事例があり、目標値を達しなかった。	今後も、民間消雪施設の維持・拡充に向けて、相談の受付や補助等の支援に取り組んでいく。
81	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている		ℕ除雪オペレーターの確保	維持指標	人/年	10	10	10	100.0%	10	10	10	10	高齢化等により、除雪オペレーターの確保が各除雪業者において大きな課題となっている中、資格取得にかかる経費に対する補助を行い、年次目標を達成した。	引き続き、講習費への補助等の支援に取り組む、除雪オペレーターの育成や確保を図る。
82	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	⑦上・下水道の整備	上水道管路の耐震化率	増加指標	%	24.8 (R2)	26.0	25.8	99.2%	26.6	27.3	28.0	28.7	単価や労務費の上昇に伴う工事費の増大により、予定に対し施工量が減少した。	浅層埋設や管路のダウンサイジングによるコスト削減を図りつつ、老朽管布設替整備など、施設の更新・耐震化に継続して取り組む。
83	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている		ℕ汚水処理人口普及率	増加指標	%	96.2 (R2)	96.8	96.5	99.7%	97.1	97.5	97.8	98.2	実績値は年次目標に接近しており、今後も事業を継続していく。下水道計画区域では、国庫補助制度を活用しながら、下水道未普及地域について計画的に整備を進めている。	R5年度も引き続き未普及地域について、計画的に整備を進めていく。 ・R5年度未普及地域解消事業 L=3.6km
84	安全・安心	15 安全で快適な生活を送っている	⑧消費生活の向上	ℕ通話録音装置利用者数(累計)	増加指標	人	52 (R2)	80	99	123.8%	110	140	170	200	R4年度は28名の新規利用があり、目標達成につながった。詐欺などの電話が増加している中、離れて暮らす高齢者世帯のために、家族から申請される事例も多い。	今後も市ホームページや広報誌、民生委員への周知依頼などを通じて、新規利用申請数の増加を図る。
85	安全・安心	16 その人らしさが尊重され、お互いに助け合いながら幸せに暮らしている	①市民が主役の地域づくりへの支援	ℕ多機能地域自治組織の結成に向けた取り組み開始地区数(累計)	増加指標	地区	-	3	2	66.7%	8	16	26	36	効率的な地域運営の参考となる県内の先進地視察などを行い、多機能地域自治への移行に向けて準備を進めているところである。	先行して取り組みを進めてきた2地区に対し、新たに外部アドバイザーを招聘して導入の支援を強化し、設立準備会の設置を予定している。この2地区をモデル地区として、多機能地域自治型組織の有効性を示し、取り組みの拡大を図る。



No.	分野	めざすまちの姿(総合計画)	施策	指標 (◎は総合戦略KPIと同じ指標) (㊦は新規・変更のあった指標)	指標区分	単位	基準値	R4年度 (目標値)	R4年度 実績値	R4年度 達成率	R5年度 (目標値)	R6年度 (目標値)	R7年度 (目標値)	R8年度 (目標値)	分析と対応	R5年度取組み内容 (今後の方向性)
86	安全・安心	16 その人らしさが尊重され、お互いに助け合いながら幸せに暮らしている	②多文化共生社会の推進	◎多文化共生・国際交流(通訳・日本語支援・ホームステイ等)におけるボランティアの登録者数(累計)	増加指標	人	128 (R3.4)	148	149	100.7%	158	168	178	188	R4年度は、新たに災害時外国人支援ボランティアの育成に取り組むとともに、日本語支援ボランティアの新規登録者を増やすため、周知・PR(HP・研修会)に取り組み、目標値を達成した。	高岡市多文化共生プラン(第3次)に基づく施策に取り組み、毎年10人ずつの増加を目指す。また、これまで新型コロナの影響でボランティア活動の場が減少していることから、ボランティアの方を対象にスキルアップ研修を実施するなど、ボランティア活動の継続につながるモチベーションの向上を図る。
87	安全・安心	16 その人らしさが尊重され、お互いに助け合いながら幸せに暮らしている		外国人のための生活相談コーナー(市役所1階)の利用者数	維持指標	件/年	2,800 (H30-R2平均)	2,800	3,633	129.8%	2,800	2,800	2,800	2,800	R4年度は、外国人のための生活相談コーナーの開設時間を増やす(月曜日8:30～12:00)など相談体制の充実を図った。	R5年度は、外国人のための生活相談コーナーの開設時間を更に増やす(火曜日8:30～12:00)とともに、ベトナム語の相談員を新たに配置(月曜日8:30～12:00)し、相談体制の一層の充実を図る。
88	安全・安心	16 その人らしさが尊重され、お互いに助け合いながら幸せに暮らしている	③男女平等・共同参画社会の実現	㊦男女平等・共同参画に関する講座等の参加者数	増加指標	人/年	195 (R2)	247	575	232.8%	299	351	403	455	新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなり、コロナ禍前の参加者数に戻りつつある。R4年度は、男性の家庭・育児の参加を促す絆メンプロジェクトの開催回数を増加し、男女共同参画の啓発と参加者数の増加を図った。	市民ニーズに応じた内容の講座を開催するとともに、SNS等で講座の開催情報を発信し、参加者数の増加と男女平等・共同参画意識の浸透を図る。
89	安全・安心	16 その人らしさが尊重され、お互いに助け合いながら幸せに暮らしている	④平和な地域社会の形成	人権セミナー参加者人数(累計)	増加指標	人	400	810	1,107	136.7%	1,230	1,660	2,100	2,550	R4年度は、隔年で実施している人権の花運動実施校を含め、6校で人権教室を開催した。複数学年での参加もあり、参加者数の増加につながった。また、コロナ禍のため、規模を縮小しながらではあるが、R4年度は2年ぶりに人権の集いを現地開催することができ、674人の参加があった。	今後も継続して、市内6校で人権教室を開催していく。開催校の規模にも寄るが、複数学年での参加を呼び掛け、人権教育の推進を図っていく。また、人権の集いについても、コロナ禍前の規模での開催を視野に入れつつ、時勢に即したテーマを設定し、参加者数の増加を目指す。
90	安全・安心	17 市役所が市民に信頼され、責任を持って取り組んでいる	①市民に開かれた市政の推進	㊦まちづくりの出前講座の動画数(累計)	増加指標	件	-	5	6	120.0%	10	20	25	30	R4年度は出前講座の動画を6本作成し、「家でも学べる講座特集」としてYouTubeで公開した。	R5年度は出前講座の動画を新たに5本程度作成する。また、引き続き、Zoomによる非対面の講座にも対応する。
91	安全・安心	17 市役所が市民に信頼され、責任を持って取り組んでいる		まちづくりの出前講座の参加者数(累計)	増加指標	人	1,220 (R2)	2,320	3,293	141.9%	3,420	4,800	5,400	6,000	コロナ禍が落ち着きつつある中で、対面式講座の申込数も徐々に回復しており、年次目標の参加者数を大幅に上回った。	R5年度は、市長自らが出前講座の講師となって市民の集会に参加していくとともに、講座の種類を4種類追加(防犯、カーボンニュートラル、デジマップ@たかおか、マイナンバー制度)し、参加者の増加に努めている。
92	安全・安心	17 市役所が市民に信頼され、責任を持って取り組んでいる	②高度情報化の推進	㊦富山県電子申請サービスに登録している申請における電子申請の割合(電子証明書(子育てワンストップサービス)が必要な申請)	増加指標	%	0.24 (R2)	6.2	0.71	11.5%	12.2	18.2	24.2	30	R3年度までは、児童手当現況届が申請件数の約半分を占めていたが、制度改正により、R4年6月には、児童手当の現況届が前年度と変更がない方の提出が不要となり、電子申請件数が大きく減少した。電子申請件数の実数自体は増加傾向にあることから、引き続き、電子申請の割合の向上を図る。	子育てワンストップ申請について、オンライン申請可能であることの周知を行うことで、より多くの市民に利便性を享受してもらえるよう努める。
93	安全・安心	17 市役所が市民に信頼され、責任を持って取り組んでいる		㊦富山県電子申請サービスに登録している申請における電子申請の割合(電子証明書が不要な申請)	増加指標	%	3.8 (R2)	9	33.7	374.4%	14	19	25	30	電子申請の件数は増加傾向にあり、目標値を達成した。	引き続き、市の行政手続について電子申請が可能な手続きを拡大し、市民が時間や場所にとらわれずに申請が行えるよう利便性の更なる向上に努める。
94	安全・安心	17 市役所が市民に信頼され、責任を持って取り組んでいる	③簡素で効率的な行財政の推進	㊦実質公債費比率18%未満の堅持	維持指標	%	18%未満	18%未満	12.0	133.3%	18%未満	18%未満	18%未満	18%未満	実質公債費比率については、公債費の平準化に加え、繰り上げ償還の実施、新規発行の抑制を図ることにより、18%未満を維持している。	R4年度に策定した「行財政改革推進プラン」に基づいて、今後も市債発行の適正化を図るとともに、一時的に一般財源需要増が見込まれる場合に備えて、R2年度に公共施設等整備改修基金を設立しており、今後も発行額の抑制を目指していく。